

# サイン計画のまとめと展望

担当：北島陽貴・梶田美結（富山大学藪谷研究室）

## 2022年度の活動の振り返り

### ① 活動目的

- 活動全体としては、地域住民の方々にサイン計画に関心を持っていただき、まちづくり意識や地域愛着を向上させることを目的としてきた。それによって、「よっさ、まちづくり会議」でも目標にしている新たな担い手の発掘に寄与することができると考えてきた。
- サイン計画としては、外部からの来訪者だけでなく地域住民の方々も楽しめるサインを計画することを目的としてきた。計画するサインによって楽しく快適な来訪者を実現するだけでなく、地域住民の吉久への関心や愛着を向上させることができると考えてきた。

### ② 活動内容

単に大学単体で取り組むのではなく、アンケート調査やサインチーム活動、報告会による地域住民の方々との様々な協働によって取り組んできた。

[表1] 2022年度の吉久サイン計画の流れ

時期	活動名	活動内容
04~05月	活動準備	先行事例や地域資源の整理した。
06~07月	アンケート調査	高校生以上の全住民を対象に吉久の魅力だと思う場所とそれに関するエピソードを調査した。
08~10月	既存サイン調査	吉久のサインの現状を調査した。
11~02月	サインチーム活動	アンケート調査で参加者を募集し、集まった4名の新規メンバーと協議会・大学メンバーによるサインチームを発足し、具体的なサイン計画を議論する活動（計6回）を行った。
02月中旬	サイン報告会	31名の参加者に2022年度の活動報告を行った。

### ③ 活動反省

- サイン報告会でのチームメンバーの感想や報告会に訪れた方々の感想から、チームメンバーは活動の中でこれまで知らなかった歴史情報や魅力を発見し、吉久への愛着が高まるったり、まちづくり活動への参加意識が高まっていることが分かった。計画したサインを設置し、より多くの地域住民の目に触れることで、その影響が広がると考えられる。

- サイン報告会に地域外から訪れた方々の感想の中には、**サイン計画によって吉久に対する親しみやすさが生まれることを期待する声**があったため、小さいながらも楽しく快適な来訪への実感を得ることができた。

〔表2〕2022年度の吉久サイン計画の反省

時期	活動名	活動内容
04~05月	活動準備	今後も他の重伝建地区の来報を通して、取組みを参考にするだけでなく、吉久の魅力を再発見することができると感じた。
06~07月	アンケート調査	アンケートの回収数が少なかったことから、調査の目的や意義が理解しにくいかった可能性があり、より入念な情報共有の必要性を感じた。
08~10月	既存サイン調査	既に設置されている吉久を案内するサインもあるため、今後新設するサインとの関係性を調整する必要がある。
11~02月	サインチーム活動	新規メンバーならではの視点が多々あり、まちづくり活動への新規メンバーの参加に取り組む意義を強く感じた。また、新規メンバーが参加しやすく、発言しやすい環境を如何につくっていけるかが重要だと感じた。
02月中旬	サイン報告会	参加者がそれほど多くなく、告知方法の工夫が必要だと感じた。強制しない募集でも参加してくれる住民の方が、今後のまちづくり活動への新規メンバーとなる可能性を感じられた。そのような方々に直接声掛けすることを検討しても良いかもしれない。

## 2023年度の活動の展望

### ① 活動目的

来訪者の楽しく快適な町歩きや、地域住民の歴史情報や地域の魅力の発見を具体的なデザインを通して実現すること目的とする。また、本計画に厚みを持たせるために、さらなる魅力情報の収集や実証実験などに取り組む可能性もある。

### ② 活動内容

- 案内サイン・誘導サイン・位置サインのデザイン → 2023年度中に案内サイン設置、誘導サインも設置
- 吉久フォトコンテストの開催（仮） → まだ見ぬ魅力スポット発掘！興味関心の向上！
- 魅力スポット活用企画の開催（仮） → サインと空間を組み合わせるで効果を最大化！
- 「さまのこアート in よっさ」での実証実験（仮） → サイン計画の効果検証！